

## 令和6年度 第3回亀岡市博物館整備検討委員会 議事要旨

日時:令和7年1月27日(月)15時00分～17時00分

場所:亀岡市役所 市民ホール

出席者: 井尻智道委員、加藤美智恵委員、栗本夏樹委員、佐々木京子委員、佐々木丞平委員、  
中西裕樹委員、原田禎夫委員、前田尚武委員、松井利夫委員、松岡久美子委員

事務局: 生涯学習部長 三宅 敦史、文化芸術課長兼文化資料館長 小塩 睦子  
文化芸術課副課長兼文化資料館副館長 土井 孝則、  
文化芸術課文化財係長 飛鳥井 拓(学芸員)、文化芸術課文化財係主任 小川 恭子

議題:

- 1 開 会
- 2 生涯学習部長挨拶
- 3 議事
  - ① 博物館整備場所について
  - ② 博物館展示等の方向性について
  - ③ 博物館施設の規模について
  - ④ 第3章・第4章について
- 4 閉 会

## 審議内容(会議全体を通して主な意見)

### (① 博物館整備場所について)

・候補地が変わったことについて友の会の会員はショックだと思う。高齢で交通機関は電車やバスを利用しており、車を運転できなくなる人もいる。ただ現実的には、5、6年後では新しい博物館は利用できないだろうと思っている方も多いので将来的な感じで捉えてくださると思う。城下町のなかの候補地は魅力的だが、資料を保存をしていくうえで、災害時を考えると敷地も周りの道路も狭いという心配があった。広い場所で災害対応もできれば、「たからもの」も守っていける。

・はじめて伺った話だが、ポジティブに受け止めている。加藤委員が言われるように、潤沢なスペースがないと十分に収蔵できない。活動も同様である。京都市立芸術大学も移転して開かれたキャンパスとなり、にぎわいやまちづくりに貢献している。新しい博物館がギャラリーかめおかと一体化し、ひとつのまちをつくるイメージで相互作用が働けば、よい文化施設になる。

・どちらの立地も一長一短がある。

遠方の人にとっては最寄り駅からバスに乗り換えるのは心理学な障壁になる。博物館学関係の授業において学生からよく聞く疑問に「多くの博物館は集客施設として期待されているにも関わらず、なぜ郊外の行きにくいところにつくられているのか」というものがある。今回もそうで、例えば京都市内の人々が、従来の計画地なら来るかもしれないが、ギャラリーかめおかの場所では来ない、ということは充分起こり得る。従来の計画では、亀山城など周辺環境とあわせて「歴史に興味のある遠方の方」も主要な客層のうちに含めてきた。しかしギャラリーかめおかであれば「車で来られる近隣の方」にメインターゲットを大きく変更せざるを得ないだろう。

・先ほど豊田市博物館の話があったが、現在は「ミュージアムは展示をするだけの施設であればよい」という考え方には無理が来ている。国内外の博物館の企画に関わっているが、どの自治体・団体も「毎日通える場所になっていくべきだ」という方向性である。

・ギャラリーかめおかのところはポテンシャルがある。博物館となると、皆さんが言われているように踏み込むべきだと思う一方で、資料館の建て替えの話は老朽化が出発点にある。浸水区域としてハザードマップに載っているところなので、極端な話、一日でも早くリスク回避する必要がある。

・今まで検討してきた場所は道路を隔てて石垣があり、環境はもちろんいいが、後ろ側に民家が迫ってスペースが狭い。新しい博物館の機能を持たせるには正直、苦しいと思った。ギャラリーかめおかは、9号線からのごちゃごちゃした印象がよくなかったが、整備をすれば問題ない。改めてギャラリーに入ってみると、素晴らしい景色に驚いた。JR から見ると傾斜で高く、周辺の山々も見える。これからの博物館は、単体で機能を持たせるのが不可能なのは間違いないので、博物館の周辺地域を含めたフォーラム的な、広場的な機能を内包しておく意味がある。

## (② 博物館の方向性について)

・事務局の話では、伝統的な歴史・文化の証左である文化財の収集・展示という博物館機能を軸足にして、可能な限り、さまざまな新しい方向にも対応していくという形をとりたいという話だと思う。

・方向性はよいので、建物があって立派な展覧会をやっているけど有料で敷居も高いというのではなく、開かれて、誰もが引き込まれるような魅力的なしなかけを、整備の方向性に盛り込んでいただけたらありがたい。

・博物館の方向性として、博物館機能は従来型の博物館機能であるけれども、フォーラム、広場の考え方を持ち込むために、それなりの計画性が必要だろうということで、そのあたりを今後、もう少しつめていく必要がある。先ほどから議論している施設の方向性については、だいたい皆さん、ご理解をいただいたと思う。方向性についてのコンセンサスを得られたと思う。

## (③ 博物館施設の規模について)

・市当局としては、実現可能性というところで 4000 m<sup>2</sup>が妥当ということである。いかがか。

・小学校の1学年全体がどんと入るように考えると、基本展示のところの第1展示室・第2展示室は 1500 m<sup>2</sup>でなくてももっと大きくてもよい。実際に企画展示室的に使うところは、かめおか霧の芸術祭のときはギャラリーも使うし、博物館のアトリウム(エントランスホール等内部の開放的空間)やギャラリーも使うし、階段の上からも吊るすと思う。それ以外のときは、自主企画もできるが、市民が自分たちで発表する市民ギャラリー的な使い方のほうが、使いやすい。多目的ホールが隣にあるなら、はたしてここに小さいホールが必要か。総合警備室はギャラリー側にすればよい。500 m<sup>2</sup>を展示につけて全体と 4000 m<sup>2</sup>とすると、コストダウンが図れる。ギャラリーかめおかのアトリウムも再整備してはいかがか。

・亀岡市にはホールを希望される市民の皆さんの運動もある。今回、土地も買って建物をつくってとなると「そんなことにお金を使うぐらいだったら」という声は起こり得る。他の行政の効率化やふるさと納税の活用など、市民の皆さんに負担をかけるわけじゃないという説明をしながら、財源を確保していくことに努めていただきたいと思う。

・重要なのは、ギャラリーかめおかとどう一体的に話し合いができるか、進めていけるか。そこにかかってくる。委員が言われたように、全体を視野に入れて、そのなかで博物館をどうするか、常に全体を考えながらやっていく。生涯教育の最先端を行っているギャラリーかめおかは、象徴としての意味が大きい。一体感というのはものすごく意味がある。

## (④ 第3章・第4章について)

・「B.円山応挙を中心とした美術工芸品の展示」については、円山応挙を軸として重要文化財、仏像展示をし、そこを目当てに多くの方々が来ていただけるスペースを設けようと考えている。

・京都の隣ということで、松岡先生のご専門の仏像も優品があり、収蔵の依頼が増えてくると思う。展示するものは結構ある。円山応挙に関しても、20年くらい前に佐々木先生から、「絵を買っていくのは大変だけど、ここに来れば応挙の文献が全部揃っている。そういうのを狙ったらどうですか」と言われたのを覚えている。

・今の資料館では実現できていない「美術工芸品を保管し、展示するにふさわしい場所」が必要だ。ギャラリーかめおかと一体化していくにしても、ギャラリーかめおかには美術工芸品をしっかりと収蔵・保管・展示できる環境はないので、博物館には展示が可能な空間をつくと同時に、展示を支えるだけの収蔵環境を整えることが大切である。

・昨年友の会では中西先生に、「これからの資料館、友の会はどうあるべきか」ということでご講演いただき、座談会を設けた。これからもボランティアが重要になってくると、しっかり理解された方も、理解が進まない方もいらっしゃる。今年はこの計画を事務局から出してもらってディスカッションした。友の会がどうあるべきか、これからも何度も話し合っていきたい。

以 上